

1 題材名 活動をふり返って

2 題材について

6年生は、これまで自分たちの経験や学びから問いを立て、てつがく対話を繰り返すことで“てつがくすること”を自分のものにしてきた。生活や他教科の学習の中から問いを立てようとする姿からは、「てつがく」が子どもたちにとってより身近なものになってきたことが分かる。昨年度までの「てつがく」と「創造活動」が、今年度は「てつがく創造活動」となったことが、日常から生まれる問いや創造活動の中で出てきた課題について「てつがく」の時間に取り上げ考えを深めていくきっかけにもなっていた。

本学級では、クラス替えをしたばかりの新学期、「てつがくとは？」というテーマが子どもたちから自然にあがり、本学級の対話の文化をつくっていくために子どもたちは自分の価値観を伝え合ってきた。6月には、「このクラスは発言する人が偏っている。」「どうしたら全員の思いを聴くことができるのだろう。」という課題意識を持った児童の発言により、全員のてつがくへの姿勢や思いを共有することができた。「挙手は苦手だけれど、頭では考えているよ。」「2,3人でなら発言できるから、まずは少人数で話したい。」など対話の前提になるようなお互いの思いまで知ることができ、その後は全員が安心して話せる環境づくりも心掛けようという思いも見られた。このような問いを扱ったことで、てつがく対話が安心して参加できる場となっていったと考えられる。

3学期は、小学校の学びのまとめの学期でもある。子どもたちは、これまでの「てつがく」の経験を生かし、てつがくの視点をもって自分たちがしてきたことを問い直しながらふり返ることができるようになってきた。そこで、教科の学びや「てつがく創造活動」で取り組んだプロジェクト活動、さらには自分たちの「てつがく」の時間について、丁寧にふり返っていききたい。てつがく対話を通してこれまでの学びを問い直し、互いに意味付けることで、子どもたちは自分の成長をふり返ったり自分たちがしてきたことを捉えたりすることができるようになる。また、子ども同士で新たな問いを投げかけ、課題を見つけることで、小学校を卒業した後にもその子の学びがその子の中で深まり続けていくことを期待する。そして、小学校で自分のものとなった“てつがくすること”をふり返りに生かすという経験をする中で、それぞれの思いが深まり、今後も“てつがくする”目をもって自分自身を問い直し、新たな課題を見つけることができるようになることを願っている。

3 学習活動計画（6時間目／全8時間）

- (1) 3学期の見直しをもつ。 . . . 1時間
- (2) 自分たちの活動をふり返り、お互いに何をしてきたのかを問い直す。 . . . 3時間
- (3) それぞれのふり返りを共有することで、自分たちの活動を意味付ける。 . . . 2時間／4時間

4 本時の活動について

(1) 本時のねらい

これまでの活動をふり返り、自分たちの活動を意味付ける。

(2) 予想される本時の展開

主な活動と子どもの姿	留意点
1. それぞれの活動のふり返りを共有し、自分たちの活動を問い直す。	・活動をもとに対話できるよう、自分たちの活動を想起させる。
2. 全体で思いや考えを共有する。	・これまでの「てつがく」を生かし、対話の中で自分たちの活動をふり返ることができるようにする。
3. 本時をふり返り、次時の見直しをもつ。	